

葉山キャンパスにおける節電の取組について

1. 基本方針

総合研究大学院大学は、教育研究活動などへの影響を極力回避した無理のない形で、葉山キャンパスの構成員である教職員、研究員、学生が一丸となり、東京電力管内における電力需給がピークを迎える時期への対応のため、計画的なピークカット・ピークシフトによる電力負荷の平準化や電気料金値上げに対応した経費節減の観点から、電力使用の抑制（以下、「節電」という。）に取り組む。

なお、節電の取組みにあたっては、学生、教職員の熱中症・感染症などへの健康被害に対する配慮など、安全管理に十分留意するものとする。

2. 取組みの対象

葉山キャンパスの全部局

3. 節電数値目標

対2010年度比使用電力量削減率△12.2%（平成27年5月22日付け27文科施第109号通知にて示された数値）

4. 節電実行概要

(1) キャンパスライフスタイルを見直し実施してきた節電の取組みの継続

東日本大震災発生以降、キャンパスライフスタイルを見直し実施してきた節電の取組みを継続して取り組む。

(2) 学生、教職員一丸で取組む空調設備使用への対応

教育研究活動への影響を最小限に抑える観点から、利用者の体調管理に十分配慮した上で節電に取り組むこととし、室温管理を徹底した上で空調設備を使用することとする。また、部分的な稼働など、効率的な使用に心掛ける。

5. 具体の節電対策

各部局等の実情を勘案の上、以下のとおり、学生・教職員等が自ら積極的に節電に取り組む。

(1) 教育研究等

教育・研究等に最大限配慮しつつ、以下の取組みを行う。

- 連続使用する機器の使用時間変更や実験時間変更によるピークシフト（電力の使用を電力需給がピークに達する時間帯から緩慢な時間帯に移行）を行う。
- 使用していない又は使用頻度の低い実験機器の電源プラグを抜くこと等により、待機電力の削減を行う。
- 実験用製氷機等の停止又は共同使用により稼働台数を抑制する。

(2) PC・OA機器等

- PCやOA機器について、不使用時の電源オフやスリープモード等の活用を励行する。
- 使用状況に応じ、PCやOA機器等の使用の集約化、使用抑制に努める。

- 使用状況に応じ、ネットワークスイッチの集約化（稼働台数の削減）を行う。
- 現に使用しているパソコン、コピー機等の OA 機器、電気冷蔵庫、ルームエアコン等の家電製品、蛍光灯等の照明器具等の機器について、旧型のエネルギー多消費型の機器の廃止又は買換えを計画的、重点的に進め、買換えに当たっては、エネルギー消費効率が高い機器の選択に努める。また、これらの機器等の新規購入にあたっても同様とする。

(3) 照明

- 不要な照明の消灯を徹底する。（【例】蛍光灯の間引き点灯 etc.）
- 休憩時間は業務上特に必要な場合を除いて消灯の徹底を図る。
- 夜間における照明も、業務上必要最小限の範囲の点灯に留め、それ以外は消灯に徹する。

(4) 空調

- 空調設備（個別空調機含む）の稼働については、下表の稼働期間及び稼働時間を厳守し設定温度の管理を徹底するとともに、不要な時間帯は稼働を停止する。
- 期間外に天候状況等によりやむを得ず稼働させる場合は、財務担当理事の了承を得た上、稼働時間を必要最小限にする。

	稼働期間	稼働時間	室温設定
【夏期】	7月1日～9月30日	平日 9時～17時	28℃（冷房）
【冬期】	12月1日～3月31日	平日 9時～17時	19℃（暖房）

※ サーバー室、実験室などについては、機器・実験環境の維持等に支障がない範囲で適正な運用に努めること。

※ 空調使用時においても、感染症予防の観点から定期的に換気を行うこと。

なお、以下に挙げたことを徹底し、空調設備の稼働の抑制に努めること。

- クールビズ・ウォームビズ（冷暖房時の室温でも快適な服装）を実践する。
- 空調設備の室温管理は、空調機の設定温度ではなく、温度計等により行う。
- 扇風機等を活用し、冷気または暖気を循環させる。
- 日射を遮るために、ブラインド、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。

※ 火災及び事故防止のため、個別ヒーターによる暖房は使用不可。

(5) エレベーター等

- 不要なエレベーターの使用を抑制する。

(6) その他

- 電気器具の共用化、使用抑制に努める。
- 定時退庁の実施に努めるとともに、節電に配慮した事業開催時間の設定に努める。

6. フォローアップ

本計画については、本学の今後の節電状況や社会情勢等の変化に応じ、対策の追加、見直しの検討を行う。